

失望社会から希望社会への転換を

鳥取市 高橋正晨

2014年を迎え、1935年生まれの私は数えて八十歳となりました。

鳥取市は鳥取三洋電機の跡地を見るにつけ、ガイナールのJ3降格の決定を見るにつけ、地盤沈下が激しく、残念ながら地域が非活性化の方向に進んでいます。

日本は、小泉政権の悪政後、民主党政権の希望社会への是正努力が野田政権の失政により跡形もなく崩れ去り、ねじれ解消の現政権が発足してから、顕著に失望社会に突き進んでいるように思われます。

私は、かねてから、日本の社会を失望社会と断定していました。日本の将来を担って貰わなければならない若者に希望を与えていない社会だからです。希望社会では、子供として生まれ、社会責任で不自由なく育てられ、十分な教育を受け、社会に役立つ職業に就き、応分の報酬を受けて生活でき、消費と次世代の子孫を残すことができます。途中でドロップアウトしても、再チャレンジでき、修業後再就職することができます。

しかし、アメリカ、イギリス、イスラエル、韓国、日本という、いわゆるアングロサクソン系の国は、新自由主義の競争原理のみで暴走するので、あらゆる格差が拡大し、大変な状況が発生しております。

広辞苑によれば、「望」とは満月のこととです。「失望」とは、あてがはずれてつかかりすること。「希望」とは、ある事

を成就させようと願望することです。

現状の日本は「失望社会」です。失われた20年でまさに「失望社会」となっています。この間に、「希望社会」でいられるように勇気を持って日本を転換させるべきであったのです。ところが誰も何もしなかった、それどころか最近の政権は更に悪化させようとしています。国家安全保障会議日本版NSC設置法、特定秘密保護法、集団的自衛権の行使拡大、憲法96条改正、原発再稼働、消費増税、TPP推進等々がそうです。

今、喫緊の課題は、「希望社会」に転換させることです。「大学までの子ども教育費国家負担」「応分な最低賃金制」「同一労働同一賃金」「ワークシェアリング」「再チャレンジできる国の職業訓練システム」など、ヨーロッパのような生活システムへの転換だと思えます。要するに、若者が安心して働き、子育てをして、次の社会を構築してくれるようにしなければなりません。

若者が切り捨てられる格差社会を根本的に転換させなければなりません。そうしなければ、「希望社会」は実現しません。

若者に希望をもたせる「希望社会」への転換ができなければ、今後何をやってもうまく行くわけがありません。大変に厳しい道ですが、日本再生の道はこれしかないと思われまます。このことが、国民に解かっているのでしょうか。現政権に解かっているのでしょうか。

若者に未来のない国は滅びるしかありません。ソ連の影響で栄えていたフィンランドが、ソ連の崩壊で国の存続が危

うくなったとき、どうすればよいかを考へてきた末に達したことは、将来GDPを生む子供への教育を国が責任を持ち、教育によって優れた人材を確保しGDPを稼ぐことでした。その結果、フィンランドでは世界に羽ばたく産業が出現し、GDPは世界トップクラスで、教育も世界最先端を走っています。国の職業教育が世界でトップです。

日本では、大企業が若者を粗末にしています。政府も同じです。しかし、これでは国の将来はありません。なぜこうなるのか、それは、既得権にしがみついて、やるべき改革をやらなかったからです。若者だけに苦しみを皺寄せしたからです。

目覚めよ政府、目覚めよ公務員、目覚めよ大企業、目覚めよ高齢者、目覚めよ全ての既得権者よ。国の将来を担う若者をこんなに苦しめたままでもいいのですか。

もう一つ大切なことは、地域の活性化です。地域の活性化は、その地域の人々が協力して、官民一体となつて、その地域が将来何によって生きるか真剣に模索、検討、実行すべきです。特に地政学的特殊性は尊重しなければなりません。また、特産物や観光資源は最大限に活用すべきです。

最終的には、地域が自立自営でできるようにしなければなりません。自立定住圏の確立です。再生可能エネルギーの活用は地域の活性化のポイントとなります。エネルギーの創出は自立した地域の大切な資源となります。太陽光・風力・波力・地熱・バイオマス・小水力、などの活用を馬鹿にしてはなりません。

さらに原発の問題です。科学的に考へて、原子力は人間のコントロール下には置けないエネルギーです。日本のような噴火・地震・津波大国で原発を維持することは至難の業です。また核廃棄物の最終処理も科学的に無理で、不可能な島国です。

ドイツ政府の脱原発の決断は、人類の英知です。100年後まで高レベルの核廃棄物を密封できる最終処分施設の立地を全国の岩塩層、粘土層、花南岩層で探索し、最終処分場を決定する法律が昨年ドイツでは成立しています。フィンランドはオンカロに、原発の最終処分場もすでに実現させています。

日本は、先の大戦に敗北し、否応なくアングロサクソン陣営に取り込まれ、安保、基地、原発、新自由主義などに悩まされることとなつており、日本古来の和の精神は見る影もありません。しかし、ヨーロッパの国々の人間尊重の考え方や国の運営方法には参考とすべき点が多々あります。日本人はアングロサクソン人のような考え方をし、本当に幸福なのか、このあたりでよく考へて、悪い点は修正すべき時期に来ているのではないのでしょうか。

戦前、戦中、戦後と生きてきた私が何れこの世から消え去る身として思うのは、日本の将来を担う若者の「希望社会」を1日も早く実現してほしいということです。現政権の今後1年間のアベノリスタの成果をよく見極めることが大切です。このことが現政権で実現して貰えそうであれば、何とかして国民の総意で実現して貰える政権を早く創り挙げる必要となつて来ます。